週刊観光経済新聞
宿泊・旅行業・運輸・自治体（観光全般）

第２部

熊本県・阿蘇観光は元気です

県、２温泉関係者が語る「活性化への取り組み」

――（司会＝本社・森田淳）熊本県全体の観光の現状と県観光における阿蘇地域の位置付けは。

渡辺　平成23年3月の九州新幹線全線開業を機に、熊本県の観光入り込み客数は上昇傾向をたどっている。平成25年の県内の宿泊客数はおよそ680万人で、前年比3・1％増加。特に、「くまモン」を使ったキャンペーンを行った関西からの観光客、そして外国からのお客さまが増えている。680万人のうち、外国人客はおよそ42万人。うち半分強が韓国、2番目が台湾だ。台湾は高雄からの定期チャーター便の搭乗率が非常に好調で、もしかしたらこの5年ぐらいで韓国を逆転するかもしれないという勢いだ。

ただ、平成24年7月の九州北部豪雨で、ここ阿蘇プラザホテルさんも1階が水没するぐらいの大きな被害を受けた。地元の皆さんの懸命の努力で復旧したのだが、昨年11月の阿蘇中岳の火山活動活発化により、阿蘇地域への観光マインドが再び落ち込んでしまった。

昨年10～12月の県全体の国内観光客数は、前年同期比2・5％減少した。これは阿蘇地域への入り込み減が影響していると思う。ただ、外国人の宿泊客数は、この期間、前年同期比40％強アップしている。現在、宿泊客数に占める外国人の比率は5～6％だが、大きく伸びれば国内客のマイナス分を補って余りあるほどになる。阿蘇地域が元気になることが、県全体、九州全体の観光を押し上げるものだと考えている。

25年5月には世界農業遺産、昨年9月には世界ジオパークに認定されるなど、世界に評価される阿蘇地域のポテンシャルをさらに引き出し、活用する必要がある。27年度は、このポテンシャルにスポットを当てたプロモーション活動を展開する予定だ。

――阿蘇の噴火の影響は。

河津　昨年12月に200人ぐらいのキャンセルが出た。そのうち170人ぐらいが海外のお客さまだ。

ただ、今年に入ってからは、噴火や降灰についての問い合わせはほとんどないので、その影響は軽微になっていると感じている。

稲吉　内牧温泉は、旅館組合に加盟している宿が23軒。阿蘇五岳の絶景を眺める温泉地だ。

先ほどの渡辺局長のお話の通り、平成24年の水害で温泉地が大きな被害を受けたほか、昨年の噴火では組合施設全体で2千人ほどの宿泊キャンセルが出た。山頂付近などの観光施設はこの冬、前年比で5万人ほどお客さまが減っている状況だ。

ただ、今年に入り、国内客、インバウンドとも少しずつ増えており、2月は春節ということもあり、全館満室という旅館もあった。山頂付近でも意気揚々と観光を楽しんでいる外国のお客さまが目立っている。当温泉では名物のあか牛を使った丼を出す店があるのだが、休日は3時間待ちになるところもある。

ただ、教育旅行は予断を許さない状況で、直近の例では、10月の実施分が2月の終わりに取り消しになってしまった。

噴火直後の報道の仕方にインパクトがあったようで、教育旅行はまだ若干影響が残るのだが、総じて言えば日本の個人、団体のお客さま、インバウンドのお客さまについては普段通りに戻ってきた感じがする。

松瀬　たまたま噴火当日、ここ内牧温泉にいた。すぐ関西に戻ってテレビのニュースを見たのだが、実際に見るのと画面で見るのとでは印象が全く違った。「なぜ、こんな報道の仕方をするのか」という疑問が頭に浮かんだ。御嶽山の悲劇があったので殊更なのだろうが、決していい報道の仕方ではないと思った。

ただ、予約の現状などを見ても、風評被害はもう、ほとんど収まったのではないかと感じている。地元の方の努力があったのだと思う。むしろ脅威なのは新幹線が開業した北陸地方だ。

――杖立と内牧、それぞれの地域の現状は。

河津　杖立温泉は、旅館組合に加盟している旅館が17軒、加盟以外の旅館が3軒、計20軒の温泉地だ。

平成21年のリーマン・ショック直後に入り込み客数が最も落ち込んだ。少し復活したところで23年、九州新幹線が開業したのだが、当温泉地ではほとんど影響がなく、逆に東日本大震災の影響で再度落ち込んでしまった。ただ、24～26年は3期連続でお客さまが増加している状況だ。

入湯税を払っている人の数は年間12万人弱。そのほか、当温泉で盛んなホッケーの合宿など、入湯税でカウントできないお客さまもかなり来ている。

――インバウンド客は。

河津　当社は平成16年からインバウンドに本格的に取り組み始めた。16年は3千人に満たなかったが、昨年は4万2千人。当社の計画では、オリンピックの前年の31年までに5万5千人を受け入れたいと考えている。

今年は中国やタイのお客さまが増えている。シンガポールは原発事故の影響でほとんど来なくなったのだが、ここに来て戻っている感じだ。

「ふろモ課」で温泉PR

渡辺

「Neo湯治」楽しんで

河津

阿蘇に暮らす人に焦点

稲吉

若いリーダー頼もしい

松瀬

――読者に向け、熊本・阿蘇の魅力を改めてアピールを。

渡辺　今、県では「今だから出会える風景　阿蘇さんは今日も元気です」というキャッチコピーでキャンペーン活動を展開している。

もくもくと噴煙を上げる阿蘇の風景は、ある意味当たり前の風景で、地元の人々は何十年、何百年と阿蘇の活火山とともに生活してきた。今回の噴火は20年ぶりだが、誰一人避難をしておらず、日常生活にもほとんど影響がない。

噴煙を上げている姿を安全に見られる機会は逆に言えば今しかない。教育旅行でも、阿蘇に来て学べることがたくさんある。地元では防災プログラムの開発も行っている。安心して、修学旅行についてもお越しいただきたい。

河津　今回の噴火は、地球の成り立ちを学べる絶好のチャンスだと思う。自然、そこで暮らす人の営み、いろいろなことが学べると思う。ぜひ、この機会にお越しいただきたい。

稲吉　今回の噴火で風評被害が確かにあった。ただ、その雄大さ、素晴らしい魅力というものをわれわれは改めて再認識させられた。

今、人に焦点を当てた「然」というプログラムを行っているが、それにプラスして、阿蘇の素晴らしい自然について、その魅力を再発掘しなければならないと感じた。

朝日が上がる阿蘇の風景は本当に美しい。噴煙に光が当たりオレンジ色に輝く瞬間がある。ほんの5分ほどだが、お客さまにとっては感動の時になるだろう。われわれもこのような魅力を積極的に発信したいと思う。

松瀬　本当に魅力的な阿蘇温泉郷だと思う。あとはこれらの魅力をどう発信するかだ。

旅行会社に加え、一般の消費者にも、その魅力が確実に伝わる方法を私としても研究していきたい。

阿蘇市観光協会会長
阿蘇プラザホテル社長
稲吉　淳一氏

九州観光旅館連絡会
代表理事
松瀬　裕二氏
（オブザーバー）

杖立温泉観光協会副会長
杖立観光ホテルひぜんや社長
河津　豊四郎氏

熊本県商工観光労働部
観光経済交流局長
渡辺　純一氏
（4月1日から商工観光労働部新産業振興局長）

昨年11月25日、熊本県の阿蘇中岳が噴火した。1993年以来、21年ぶりのことだ。ただ、付近の温泉・観光地は降灰などの影響はほとんどなく、普段と何ら変わらず観光を楽しめる。「めったに見られない阿蘇の様子を楽しめる」と、関係者もPRに積極的だ。今回、熊本県観光経済交流局の渡辺局長と阿蘇地域2温泉地の代表、そして九州観光旅館連絡会の松瀬代表理事にオブザーバーで加わっていただき、熊本・阿蘇地域の魅力を存分に語ってもらった。

座談会は内牧温泉（阿蘇市）・阿蘇プラザホテルで実施

ダイナミックな自然と人情味あふれるいで湯

熊本 阿蘇

天空（ラピュタ）の道
阿蘇北外輪山の農道「市道狩尾幹線」。ここから望む風景がアニメ「天空の城ラピュタ」を連想させることからこの名が付いた。雲上から見下ろすような幻想的で美しい景色がアニメファンやライダーらから人気を集めている

杖立温泉街と鯉のぼり祭り
毎年４月初旬から５月中旬まで、温泉街を流れる杖立川の上空を約3500匹の鯉のぼりが泳ぐ。各地の観光地でも見られるようになったが、ここが元祖という。夜間は幻想的にライトアップされる

昨年11月の阿蘇中岳の噴火で、熊本・阿蘇地域一帯の観光・温泉地は風評による被害を受け、特に修学旅行などでキャンセルが相次いだ。ただ、今年に入り被害も徐々に収束し、一帯は普段通りのにぎわいを見せ始めている。

「火の国・熊本」を象徴する阿蘇はいつも以上の噴煙をたなびかせ、そのダイナミックな景観は国内外から来る人々を魅了している。

また近年は、「天空（ラピュタ）の道」「鍋ヶ滝」といった、口コミやメディアで話題になった新しい観光スポットも注目を集めている。

鍋ヶ滝
小国町の「道の駅小国ゆうステーション」から車で約10分。高さ９㍍、幅20㍍の滝。滝の裏手に道が続いており、滝の裏側を観賞できるのが珍しい。近年、二つの飲料メーカーのＣＭ撮影地になり、一躍有名スポットとなった

杖立温泉背戸屋巡り
杖立では路地裏のことを背戸屋（せどや）と呼ぶ。その散策が人気だ。古くから湯治場として栄え、古い街並みが残る背戸屋の散策はまるで百年前にタイムスリップしたような不思議な感覚を味わえる

杖立温泉蒸し場
源泉98度という温泉の蒸気を利用して野菜や卵をゆでる。温泉街のあちこちにあり、住民や湯治客に利用されている

杖立温泉絵鯉
杖立川に架かるもみじ橋の屋根に絵馬ならぬ絵鯉が吊るされている。「こい」だけに願い、特に恋愛ごとが叶うと評判に

杖立プリン
杖立伝統の菓子「甘玉子」を現代風に復活させた。旅館や飲食店でオリジナルプリンを販売している。食べ歩きが楽しい

温泉街の路地裏で昭和の日本感じる

九州観光旅館連絡会
福岡事務所係長
難波友紀

熊本の黒川温泉、大分の湯布院温泉より1時間圏内のところに杖立温泉がある。熊本と大分の県境に位置する阿蘇郡小国の杖立は、山と山の間を流れる杖立川の流れに沿うように旅館が立ち並ぶ温泉街。湯けむりが目の前に広がり、温泉街を彩る。都会の喧騒などは一切ない。聞こえてくるのは川が流れる自然の音。

自然と共存するように立ち並ぶ温泉街の中に、まるで昭和の時代に迷い込んだと錯覚するような路地裏がある。背戸屋と呼ばれた路地裏は、新しい建物はない。時は流れ、良くも悪くも建物は自然の力で朽ちてゆく。朽ちてゆくがゆえに風情を感じることができる路地裏が杖立温泉にはある。

日本の「和」といえば、何を思い浮かべるだろうか。桜・寺・お茶などさまざまな「和」が日本には存在する。「和」の代名詞といえば京都かもしれない。

杖立温泉に京都のような「和」はない。だが何十年か前の時代に確かにあった昭和の日本を感じることができる。それは、戦後から人々が必死に働き、生きて、作り上げた平和なこの時代につながる「日本の和」。

杖立温泉につかり、そしてゆっくり背戸屋を歩きながら、昭和の時代に足を踏み入れてみてはいかがだろうか。その風景にきっといろいろな思いが浮かぶはずだ。

草千里
阿蘇五岳の一つ、烏帽子岳の中腹に広がる草原。牛や馬が放牧され、春から秋にかけては乗馬体験もできる。レストラン、みやげ店などもある周辺観光の拠点。火山を学べる博物館もある

阿蘇神社
全国に約450ある阿蘇神社の総本山。参道が拝殿を中心に左右に伸びる全国的に珍しい横参道の神社。境内には願いごとを叶える「願かけ石」や縁結びにご利益がある「高砂の松」がある。五穀豊穣を祈る春の「火振り神事」が有名

北里柴三郎記念館
日本が誇る世界的医学者、北里柴三郎は現在の熊本県小国町出身。その功績をたたえる記念館が地元にオープンしている。博士に関わる遺品、書庫、生家の一部などが保存されている

阿蘇神社門前町水基巡り
阿蘇神社の参道を中心とした門前町に水基（みずき）と呼ばれる水飲み場が33カ所点在している。阿蘇の山々が育んだ清らかな水の飲み比べが楽しめる。レトロな雰囲気の商店街には女学校を改装したおしゃれなカフェも

九観連　九州観光旅館連絡会　安心してお泊まりいただける九州・沖縄の一流ホテル・旅館の予約センター　http://www.kyu-kan.net

札幌 TEL:011-242-4571 FAX:011-242-4581 E-mail:sapporo@kyu-kan.com	東京 TEL:03-5298-7001 FAX:03-5298-7002 E-mail:tokyo@kyu-kan.com	北陸 TEL:076-224-1801 FAX:076-222-7299 E-mail:hokuriku@kyu-kan.com	岡山 TEL:086-233-7141 FAX:086-233-7143 E-mail:okayama@kyu-kan.com	福岡 TEL:092-471-7854 FAX:092-471-7865 E-mail:fukuoka@kyu-kan.com
仙台 TEL:022-266-4426 FAX:022-266-4428 E-mail:sendai@kyu-kan.com	名古屋 TEL:052-582-9131 FAX:052-583-0330 E-mail:nagoya@kyu-kan.com	大阪 TEL:06-6533-1131 FAX:06-6531-1388 E-mail:osaka@kyu-kan.com	広島 TEL:082-244-2841 FAX:082-244-2844 E-mail:hirosima@kyu-kan.com	本部 TEL:06-6531-7101 FAX:06-6531-7283 E-mail:info@kyu-kan.com